

令和1年度 社会福祉法人清長会 法人本部事業報告

法人設立40周年の節目を迎えた令和1年度、新たな時代の幕開けとともに記念事業の開催でスタートした一年でありました。

まず運営面においては、各々の事業所が法人理念の下、地域に貢献し、サービスをご利用いただく全てのご利用者とそのご家族から満足を引き出し信頼を寄せていただける事業所として存在できるよう、また全ての職員が、高いモチベーションとやりがいをもって継続して働くことができるよう、その実現に向けて取り組んでまいりました。

特に人材の確保・定着・育成については、広告の掲載とホームページのリニューアル、資格取得の推進やキャリアアップにつながる研修の開催、働き方改革としての積極的な有給休暇の取得の奨励や同一労働同一賃金の施行に向けた格差解消のための協議、次年度本格導入となる人事考課の見直しと試行的な運用、外部機関に委託しての全職員を対象としたアンケート調査の実施やメンタルヘルスを目的としたストレスチェックの導入等、様々な側面から具体的な取り組みを行ってまいりました。

また、社会福祉法人の使命である地域貢献事業については、昨年度に引き続き地域の貧困家庭への支援に取り組む「育みの会」の活動に協賛するとともに、新たに「フードバンク山梨」の支援活動にも法人内の物品を有効活用する形で協力させていただいております。

さらに、感染症予防対策にも徹底して取り組んでまいりました。特に、年度終盤より発生した新型コロナウイルスへの対応については、関連情報の収集と発信、状況の把握と具体的な指示伝達、備品類の調達調整等、本部主導で集中して行ってまいりました。併せて、小学生の一時預かり等職員の就業をバックアップする体制の整備にも、期間限定で取り組んでおります。

なお、今年度2年目となる福祉充実計画については、追加土地購入の問題で計画が一年ズレ込む形となりましたが、今後については予定通り進捗していけるものと考えております。

次に経営面においては、人材不足からくる一部事業所の配置基準の引き下げや一昨年から報酬改定の影響により、年度当初は各事業所ともにかなり厳しい落ち込みを予想しておりましたが、最終的には各々の経営努力により、法人全体として1億2千万円弱の積立金を計上することができ、収益率についても、介護分野においては6.3%、障害分野においては16.61%、法人全体としては10.98%と、各々全国平均を上回り、前年度と比較しても若干の減益で抑えることができております。

特に介護分野においては、社会福祉法人の運営する全事業所の約3割が赤字だと言われる中、当法人におきましてもデイサービス等一部通所事業においては当初の目標稼働率に達成せず、前年度までの積立金を取り崩して借入金の元金返済に充てるといった状況も発生しておりますが、その他入所事業等の助力もあり、全体としては昨年度の全サービス全国平均3.1%を上回る収益率を挙げるができております。

国は新たに、連携法人の創設を提示しました。各法人が自主的な判断で協働、合併、事業譲渡に取り組めるように環境を整備することで法人の規模を拡大し、スケールメリットを生かした中で人材の確保や多様な福祉ニーズへの対応、経営の安定につなげていこうという道筋を示しています。

今後は、こういった動きも注視しながら、適時適切に判断し、多様な福祉ニーズに応え得るサービスをさらに充実させ提供していくために、国の掲げる地域共生社会の実現に向けてその主たる担い手としての役割をしっかりと果たしていくために、法人の理念を確実に実現し継続した事業運営を展開していくために、厳しい状況をしのぎきれぬ経営基盤の強化に、引き続き努める所存です。

平成28年度に策定した『社会福祉法人清長会中長期経営計画』も4年目を迎え、基本計画として位置付けた5つの重点項目についても、着実に取り組みの成果を挙げることができていると実感しております。

40周年を一つの区切りとした次の10年に向けて法人の歴史と伝統を継承しさらに発展させていくために、引き続き法人本部として力を尽くしてまいります。

令和1年度 社会福祉法人清長会 法人本部運営報告

(1)理事会及び評議員会並びに監事監査等の開催

①理事会

令和1年6月5日

平成30年度事業報告及び決算報告(監査報告)、社会福祉充実計画、
第三者運営適正化委員会業務状況報告及び結果報告、役員の改選について
令和1年6月20日

任期満了に伴う理事長の選任について

令和1年7月23日

千代田荘西棟大規模修繕について

令和1年8月21日

千代田荘西棟大規模修繕工事の入札結果並びに契約の締結について、
敷島荘施設長の交代について

令和1年10月18日

理事の選出について、業務執行理事について

令和1年11月22日

定款の変更について、給与規程の変更について、職務執行状況の報告
について、令和1年度資金収支補正予算について

令和2年3月18日 【書面議決】

諸規程の一部改正等について、職務執行状況の報告について、
令和1年度第2次資金収支補正予算について、令和2年度事業計画及
び資金収支予算について

②評議員会

令和1年6月20日

平成30年度事業報告及び決算報告(監査報告)、社会福祉充実計画、
役員の改選について

令和1年10月15日

理事の選出について

令和1年11月22日

定款の変更について、令和1年度資金収支補正予算について、

令和2年3月25日 【書面議決】

令和1年度第2次資金収支補正予算について、令和2年度事業計画及
び資金収支予算について

③監事会

定款第18条に基づく平成30年度事業実施状況等について監事監査の実施

令和1年5月21日

法人全体事業内容監査(於：敷島荘会議室)

経理監査 敷島荘拠点・しあわせホーム拠点(於：敷島荘会議室)

令和1年5月22日

経理監査 本部拠点、千代田荘拠点、くぬぎの森(於：千代田荘会議室)

(2)幹部職員による会議の開催

ア 経営者会議の開催(於：千代田荘会議室)

理事長、業務執行理事、管理職、本部事務局により、主要行事予定報告、資産表を基にした月次報告、人事管理、施設運営に関する情報交換等、法人運営及び法人経営について協議を行なった。

(ア) 構成メンバー

理事長、業務執行理事、各事業所管理職員及び本部事務局

(イ) 開催日

5月27日(月)、7月31日(月)、8月28日(水)、10月21日(月)、11月27日(水)、12月27日(金)、2月4日(火)

イ 本部事務局打ち合わせ会議の開催(於：千代田荘会議室)

理事長、業務執行理事、本部事務局のメンバーにより、原則週1回事務局の事業運営について協議することを目的に昨年度は計41回実施した。

(3)新採用職員研修会の開催(於：千代田荘会議室)

毎年1回4月に開催。新採用職員を対象に清長会の理念、沿革、組織概要、社会人としてのマナー、就業規則等各種法令やルール、障害者支援事業及び高齢者介護事業等について研修を行なった。

開催日 平成31年4月25日(木) 午前10時～12時

(4)マイナンバー制度の管理

マイナンバー制度を含む個人情報の徹底した管理、保管に努めた。

(5)ストレスチェックの実施

全事業所でストレスチェックを実施し、その結果を踏まえ、産業医と連携を図りながらメンタルヘルスの不調を未然に防ぎ、長く働くことができる職場環境づくりに努めた。

(6) 第三者運営適正化委員会の開催（於：千代田荘会議室）

規約第8条に基づき、毎年1回4月に開催。苦情や要望を報告し福祉サービスの利用者等からの苦情等を第三者の意見や視点を基に適切に対応し、信頼される福祉サービスを提供し続けることを目的に行なった。

開催日 平成31年4月25日（木）午後1時30分～

(7) ホームページでの情報発信

現況報告や財務諸表等をホームページで開示することにより運営の透明性を高めた。また、各事業所の運営情報や求人情報についても発信を行なった。

(8) 研修受講の推進

外部研修の積極的な参加を促し、職員の資格取得やスキル・キャリアアップに繋がるよう努めた。

(9) 地域貢献事業

地域の貧困家庭等の支援を行っている活動に週2回くぬぎの森のパンの無償提供を計76回実施。その他にパン作り教室、放課後おやつ作り教室、いけちゃん家フェス等にも協賛した。また、各事業所の非常食の入れ替えの時期に合わせて、賞味期限切れ前の非常食をフードバンク山梨へ無償提供を行なった。

いけちゃん家フェス：6月23日（日）、9月15日（日）

※12月、3月はインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染防止のため中止

放課後おやつ作り教室：7月26日（金）、パン作り教室：8月8日（木）

(10) 表彰等への具申

実施なし。

(11) 同一労働同一賃金の施行

同一労働同一賃金の施行に向けて、塚原顧問社労士の指導の下、正規職員・非正規職員の業務内容と賃金を精査し、不合理な格差の解消するため非正規職員の就業規則の見直しについて協議を計9回行なった。

(12) 人事考課制度の見直し

塚原顧問社労士指導の下、新たな人事考課制度を試行的に実施。また、各事業所より出された課題について検討・修正し、令和2年度の施行に向

けて整備を行なった。

(1 3) 第3回コンプライアンス会議の開催（於：千代田荘会議室）

コンプライアンス規程に則り、コンプライアンス会議を開催。各施設長等から法令順守のための取組みや実施状況について報告、協議した。

開催日 令和1年7月31日（月）午後3時～

(1 4) 法人設立40周年記念講演及び親睦会

法人設立40周年を迎え、法人全役員職員の交流を深めるため、記念講演及び親睦会を開催した。

開催日：平成31年4月26日（金）（於：甲府記念日ホテル）

出席者：約180名 記念講演：「介護に関する法的リスクについて～事故が発生した時のご利用者ご家族への対応上の留意点～」

講師：古屋顧問弁護士

(1 5) 管理者研修会

各施設の役職職員のスキルアップを目的として、古屋顧問弁護士、藤森第三者委員を講師にお迎えし、法人内部研修会を計3回実施。

令和1年6月27日（木） 講師：古屋顧問弁護士

「職員の交通違反（刑事犯罪）について」

令和1年7月31日（水）、8月28日（水） 講師：藤森第三者委員

「管理職としての役割について」

(1 6) 求人広告への掲載

各事業所の人材確保のため、法人本部が一括し新聞の折込み広告に求人情報を掲載。その他フリーペーパーへの掲載や求職者に興味をもってもらえるようホームページのリニューアルを行なった。

広告掲載日：2月23日（日） 採用：2名

(1 7) 職員アンケートの実施

職員一人ひとりが、やりがいや高いモチベーションを持ち継続して働くことができる職場環境の整備に重点を置くため正規・非正規問わず、すべての職員に対してアンケート調査を実施。前回のアンケートから出された課題が改善されたかを振り返る項目の追加や職員がよりアンケートに答えやすいよう外部委託を行なった。アンケート結果は職員に公表すると同時にアンケートより出された課題については各事業所で協議を行ない労働環境の改善に努めた。

(18) 新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルス感染拡大を受け、本部主導のもと各事業所へ情報発信をし、感染症対策に努める様通知及び指示を行なった。

- ① マスクや手袋、ガウンなど在庫状況を確認し不足している事業所への調整を行なった。
- ② 小中学校が休校となる中、子どもの預かり先に苦慮している職員に対して休暇取得や勤務調整を行なうと共に、希望する職員には春休みに入るまでの一定期間、学生アルバイトを雇い小学生を別棟でお預かりし、職員の就労が可能になるよう働きやすい環境に努めた。

令和1年度千代田荘グループ事業報告

令和1年度千代田荘グループにおいては、地域共生社会の実現にむけて3事業所とも地域に存在する施設として、保護者、各関係機関、地域との関わりを積極的に行い地域に根差した信頼される施設づくりを目指して、質の高い安定したサービスの提供を実施した。

福祉業界全体で求職者が少ない現状の中、人材確保と定着、育成に取り組み、高齢化・重度化への対応のみでなく、精神障害・強度行動障害のあるご利用者を含め多種多様化しているニーズに対応できるよう各事業所とも取り組みを実施した。

経営面においては、千代田荘については、職員不足のため人員配置基準を下げたことにより前年度と比較して大幅に収入が下がる見込みであったが、平均稼働率99%と稼働率を上げることで当初予算を上回る事業収入を確保することができている。短期入所事業所については、短期入所者の安定した利用と制度改正によりモニタリングの回数が増えたことで、前年度と比較して収入増に繋がった。こんふおーと天狗沢については平均稼働率96%と前年度と比較しても大きな変動なく安定した事業収入を確保することができている。

各事業所の具体的な報告については、以下のとおりである。

(1)障害者支援施設千代田荘について・・・生活介護・施設入所支援

60歳以上のご利用者が31名と高齢化がさらに進んできた現状において、日常生活における介護・医療等への今後の支援のあり方について検討を重ねながらご利用者に対する支援の充実化を目指し取り組んできた。

経営面においては、甲府市障害者(児)施設整備費補助金を活用した大規模修繕工事や人材確保等支援助成金を活用したリフト浴の導入等予定していた事業を計画通り実施することができた。

運営面においては、以下11項目を重点取り組み事項に掲げ取り組みを行い、概ね当初の計画通り実施することができた。

- ①介護・医療・リハビリを中心とした高齢化への対応
- ②強度行動障害・精神障害の障害特性の理解と支援力の向上
- ③ご利用者主体の生きがいのあるサービスの提供と日中活動の充実
- ④事業継続計画の策定を含む緊急時・災害時に備えた防災対策
- ⑤人材の確保と定着と育成
- ⑥メンタルヘルスの取り組み
- ⑦虐待防止の取り組み
- ⑧感染症予防の取り組み

⑨地域交流及び地域貢献の取り組み

⑩リスクマネジメントへの取り組み

⑪施設整備の充実

特に令和 1 年度においては、①の高齢化への対応については、嘱託医との連携を図りながら 2 名のご利用者の看取りを行い、住み慣れた場所で最後までご本人らしく穏やかに過ごすことができるよう支援を行った。②の重度化への対応については、強度行動障害者支援者研修を対象職員全員が終了してる中で、支援手順書の見直しを実施し、障害特性にあわせた専門的なアプローチと統一した支援の実施を行った。③の日中活動の充実は、アルプスファームでの活動は、職員を増やすことで 1 年間を通して生産活動から販売まで民間企業と連携を図りながら活動の提供を行った。④の防災対策については、地震、火災、土砂災害を想定し年間 24 回の防災訓練を実施し、様々な時間帯を想定しての訓練に取り組んだ。災害発生後に施設の運営とご利用者支援を継続するための計画として作成した事業継続計画については、職員に対し内容の周知までは行ったが、計画の見直しや追加、そして具体的な訓練まで実施することができなかったため、次年度は計画内容の見直しから追加を行い、具体的な訓練まで繋げていきたい。⑤の人材の確保については、年間を通して各種就職ガイダンスへの参加や専門学校や短大を卒業した職員にも協力をえながら学校を訪問する等の取り組みを行ったが、確保までは繋がらなかった。また、ホームページの内容の充実化を図り、施設の良さや働いている職員の想いを届けることで、みていただいた方に魅力を感じてもらえるよう取り組みを行った。働き方改革のひとつとして年次有給休暇の取得を年間通して計画的に行うことで働く意欲にも繋がった。職場環境改善のために実施した職員意識調査アンケートの結果をもとに、職員にも意見をもらいながら改善を図った。⑥のメンタルヘルスの取り組みについては、産業医と連携を図りながらストレスチェックの活用やセルフケア研修の実施もしながら働きやすい職場づくりに努めた。⑧の感染症対策については、9 月下旬から 10 月上旬にインフルエンザ A 型の集団感染が発生しており、予防接種前の感染であったので、短期間で感染が広まってしまったが、嘱託医や保健所の指導を受けながら、重症化することなく終息に繋げることができた。1 月末からは新型コロナウイルス感染拡大により、感染防止のため、保護者にもご協力・ご理解をいただく中での外出・外泊・面会の制限や、マスク・消毒液・エプロン等の必要備品の備蓄等徹底した感染予防対策に取り組んだ。⑨の地域貢献への取り組みについては、地域の小学校の登校時の見守り支援を年間通して行い安全に登校ができるよう努めた。児童数の減少により今年度で終了となったが、この取り組みを通じて地域の方々とのコミュニケーションの回数も増え、地域の中に存在する施設としての理解にも繋がった。⑪の施設整備については、甲府市障害者(児)施設整備費補助金を活用し、西棟のリハビリルームと地域住民の避難スペースをかねた大規模修繕工事を実施した。また、労働局の人材確保等支援助成金を活用し、西棟に新たにリ

フト浴の導入を行った。ご利用者の夜間の安全と職員の介護負担の軽減のために低床ベッドを新たに3台購入した。

(2) 短期入所事業所千代田荘について・・・短期入所事業・計画相談事業

短期入所事業においては、利用総数117名・延べ利用日数2,257日と年間を通して稼働率も目標に達しており、長期短期利用者の利用日数制限もある中でも、空床型事業もあわせて行うことで定員枠を拡充し、安定した利用に繋げた。

計画相談事業(ぴーすふる千代田)においては相談員2名の体制で、前年度のベースをもとに事業運営を行った。ご利用者の大きな変動はなく、新規利用者の受け入れも可能な限り行うことで、安定したサービス提供を行うことができた。また、制度改正により施設入所ご利用者のモニタリングが年1回から2回に増えたことと報酬改定があったことで、前年度と比較して収入増に繋がった。地域移行・定着支援については、地域で対象となる障害者がいなかったため稼働がない状態であった。行政や事業所など関係機関との信頼関係や認知度は、前年度とも大きく変わることなく対応ができている。

(3) こんふおーと天狗沢について・・・介護サービス包括型地域生活援助事業

就労支援事業所の利用や介護保険サービスの利用、一般就労の方等利用している方の年齢やサービスの利用も多種多様化してきているが、個々のニーズに応じて本人の望む地域生活を送ることができるよう取り組んだ。

- ①お一人おひとりの自己実現につながる支援
- ②安全と安心を保証し継続ができる設備整備と機能・体制の強化
- ③高齢化・重度化・障害特性に対応できる支援力・介護力の向上
- ④地域住民の障害理解と共生に向けての啓発
- ⑤関係機関・事業所との連携及び協力体制の強化

令和1年度は上記の5項目を重点目標として掲げ、取り組みを行った。特に利用されている方の高齢化や重度化も進む中で、身体介護とあわせて健康管理が必要な方も増えてきており、個々の障害特性にあわせ支援力・介護力の向上に努めた。防災面においては、災害時の停電に備え発電機と投光器の導入を目的に共同募金の助成金を申請し、交付決定がおりたので次年度導入をすすめてまいりたい。また、地域との関わりについては、社協主催のサロンへの参加を継続して行い、地域内のお祭りへの参加等自治会活動にも参加ができるようになってきている。毎年実施していた運営推進会議については、新型コロナウイルスの感染拡大にともない延期となっている。

令和1年度 多機能型通所事業所くぬぎの森 事業報告

くぬぎの森は令和1年度、福祉就労の場として生産活動を通し、就労継続支援B型・就労移行支援・生活介護の各サービスを、利用定員40名に対し44名のご利用者様と利用契約を締結し、一日平均利用者数は43.9名、1日平均利用率は109%のサービス提供に務めました。

ご利用者様個々のニーズに合わせたサービスの提供に努め、また、ご利用者様一人ひとりにあった作業提供に努めました。働く意欲を高められるような支援提供に努める一方、生産性とは別に個のご利用者に向き合い、精神的安定或いは心の豊かさを育む対応も併せ、年間を通じ職員が一丸となって精力的に取り組みました。

今後もご利用者様の障害特性や個々のニーズに則した質の高い、特色のある障害福祉サービスが提供できるよう、サービスの質の向上に努め、効率的かつ効果的な施設経営に努めます。

令和1年度の当初計画に沿って、重点的に取り組んできた内容について、次のとおり報告致します。

☆ 障害福祉サービス事業

障害者を取り巻く環境等多様化してきている現代、ご利用者様個々のニーズも考慮し、休日もサービス利用可能日の設定継続を図る等、個別支援の充実に努めました。ご利用者の109%に至る利用率をあげ、昨年度より自立支援給付費増収入に至りました。但し、3サービス中、就労移行支援サービスは、定員には満たない状況であり、サービス変更も含め今後の課題として取り組みます。

また、社会貢献として「一般社団法人育みの会」が実施している生活困窮児童・生徒への食育に際し、法人事業とは別にくぬぎの森のパンを年間通して提供し、児童・生徒への効果の表れの一助に継続貢献もしています。

☆ 就労支援事業

本年度も各部署とも常に効率的な段取りから、正確な仕事を目指し、お客様からの信頼確保を追求し取り組みました。自主生産部門パン製菓部署においては、販売先の中止やイベントの縮小に伴い収入に大きな打撃となりましたが、自社製品フェスティバルを積極的に企画する等、仕掛け作りに努め方策の土台作りに勤しみました。受注生産部門のクリーニング部署は、発注元業者からも賞賛される実績で発注量増の希望に対しても、法人充実計画の中で応えていける様計画中です。また、企業下請部署における八雲製菓現地就業は、人員配置を満たすのは困難な事より廃止となりましたが、資材加工の受注を請ける形で関係性を保ちながら当施設としての新たな展開を模索中です。それらの成果で、同様の施設の中にあっても他と差別化を図り、国基準では給料支給を義務化されていないサービス利用者へも、当施設独自の働く者全てを対象にした給料支給を成し遂げております。

年度末より新型コロナウイルスによる影響が、パン製菓部署と企業下請部署には顕著に出始めている状況ではありますが、くぬぎの森が One Team にまとまり乗りきります。

令和1年度 敷島荘グループ事業報告

1 はじめに

平成30年度の介護報酬改定の主旨に沿い質が高く効率的な介護の提供に努めてまいりました。今年度も地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重度化防止に資するサービスの提供、多様な人材の確保と生産性の向上等を重点目標として様々な取り組みを実施しています。

各サービスの報酬単価の見直し等の改定事項に的確に対応し、介護保険事業収入の増加に努めてまいりましたが、定期昇給等による人件費の増加は、施設の経営努力が及ばない部分もあり厳しい経営環境にあります。

このような中、職員のキャリアアップ、人事評価の推進、介護業務の職員負担の軽減や業務の効率化等の職場環境の改善の取り組みを行ってまいりました。また、「介護ケアの拠点」、「頼られる施設」を目指し、敷島グループの持つ様々な資源、「介護の総合事業所」としての機能を活用しつつ、介護サービス以外の場面においても、地域住民、ボランティア、行政等と連携しつつ地域に貢献する活動に取り組んできました。

2 事業目標の柱

1 「介護・生活支援サービスの充実」

利用者本位の生活を実現するため、多職種の協働によるチームケア向上の取り組みを推進するとともに、各種サービスに関するマニュアルの見直しを進めサービス内容の標準化、業務のシステム化に努めてまいりました。また、在宅医療との連携を図り生活支援サービスの充実を推進してきました。

2 「専門性の高いケアの提供」

認知症高齢者が増加する中、認知症ケアを推進する職員のスキルアップや認知症に関する相談・調整機能の充実を図ってまいりました。また、利用者の重度化に伴い、看取りケア、訪問看護事業との連携強化やリハビリテーションを実施するための環境整備等の機能強化に努めました。

3 「経営基盤安定に向けた取組の推進」

(1)施設の老朽化にともなう大規模改修、改築、備品買替等、年次計画に則り遂行してまいりました。

(2)各事業の経営目標、指針を明確にした健全経営の徹底を図るとともに敷島荘グループ機能の強化、組織の強化に努めてきました。

(3)リスクマネジメント・危機管理体制の整備強化を図ってまいりました。

(4)人材確保・定着に向けた取組みとして職場環境の見直しによる業務の効率化、職員のメンタルヘルスケアの充実等に努めてきました。

(5)職場における職員のコミュニケーションスキルの向上のための研修や良好な人間関係の構築の推進など働きやすい職場環境の整備に取り組みました。

4 「人材育成のための環境整備」

人材育成のため研修・研究機能の強化を図り、将来のキャリア目標が持てる職場環境づくりに努めてきました。

5 「地域福祉の推進」

潜在的な福祉ニーズへのアプローチを積極的に行うことにより地域の多様な福祉ニーズへの対応に努めてきました。また、地域包括や在宅医療との連携強化を図るとともに、在宅介護相談体制の強化・充実を図ってまいりました。地域の防災拠点(福祉避難場所)としての運営強化にも努めています。

6 「福祉充実計画の推進」

現在、福祉充実計画を5か年計画で推進しています。デイサービスセンター建設の追加用地の取得に取り組みましたが購入には至りませんでした。

令和1年度 しあわせホームグループ事業報告

はじめに

令和1年度、しあわせホーム竜王においては健全経営、地域との交流、職員の定着、ご利用者の安心した生活の確保、に重点を置き事業を展開してまいりました。地域との交流については、10月より甲斐市からの依頼により毎月1回「認知症カフェ」を、認知症高齢者を介護しているご家庭の悩み相談、また参加して頂くことにより施設の良さも合わせてお伝えし、デイサービス及びショートステイご利用者増加を目的として開催致しました。昨今のコロナウイルスの影響により現在は中止せざる負えない状況となっております。

事業の展開としましては、4月より新たに「居宅介護支援事業所しあわせホーム竜王」を立ち上げる事ができ、2人体制の小規模事業所ではありますが甲斐市包括、甲府包括、主要病院棟などへ精力的に働きかけを行い計画依頼者の増加、自施設利用者の増加へつなげることができました。

先にも挙げましたが、コロナウイルスの発生は各事業ともサービス内容、業務内容等の変更、感染予防に大変苦勞している状況です。しあわせホームグループ全体といたしましては、ご家族への注意喚起のお知らせ配布、出勤時の健康チェック、手洗い、うがい、マスク着用の実施、各職員3密を避ける行動の徹底、ご利用者対応としましては、面会制限、慰問ボランティア、散髪、歯科往診等の中止、お迎え時の検温により発熱者の施設利用の制限などを行って参りました。

予防対策の効果もあり、しあわせホームグループ内での感染症発生もなく収益への影響はない状況ではありますが、感染予防対策中であるため引き続きご利用者、職員の感染予防を徹底していきたいと思っております

(1) しあわせホーム竜王 短期入所生活介護（ショートステイ）

ショートステイにつきましては、年度目標の平均利用者数 36.8名 稼働率 92%に対し平均利用者数 37.8 稼働率 94.6 との結果となり、安定した収入を得ることができました。

職員確保については、介護、看護合わせ 3名の退職がありましたが、職員の補充もスムーズに行う事ができ適正な人員確保ができております。

業務内容においても10月より現場職員を中心とした業務改善委員会を設置し、ご利用者の生活を第一に考え、また職員アンケートを基に職員に無理のない業務の見直しを行いました。問題点があれば都度改善に取り組む体制を

整え、結果、業務に対しての不満、過重労働が原因による退職はありませんでした。

感染症については、前年度のインフルエンザ蔓延の教訓を生かし、感染症の発生時期より早い段階において感染予防に取り組んでまいりました。一年を通し感染症の発生は見られませんでした。

(2) しあわせホーム竜王 通所介護事業（デイサービス）

デイサービスについては、同地域内のデイサービスにおいて利用者の獲得競争が激しくなっている中、新規ご利用者獲得のため、早朝夕方等時間外の送迎、朝夕食の提供、年末営業等サービスの拡充に取り組み、ご利用者又は、ご家族の希望に可能な限りこたえ選んで頂ける施設づくりに励んでまいりましたが、登録者数は増加するも入院者、ご逝去、状態悪化によるサービス変更も多く年度目標平均利用者数 20 名 稼働率 83% に対し平均利用者数 19.4 名（要介護 18.4 名 総合事業 1 名）稼働率 77.8%（要介護 73.7% 総合事業 4.1%）と目標に達することができませんでした。

雇用面においては、職員の入替がなく人員配置基準も満たしており、今年度から算定した中重度加算も順調に獲得できています。

防災対策については、定期的な避難訓練をショートステイと合同により実施し、終了後にはご利用者の状態に合わせた安全な避難誘導の検討を行いました。また、9 月には非常食の体験会を実施しました。

送迎時の安全について、送迎職員の安全運転、事故への対応として、しあわせグループで所有している全車両にドライブレコーダーを設置しました。

(3) しあわせホーム竜王 居宅介護支援事業所

介護保険の相談窓口として 4 月より新規事業「しあわせホーム竜王 居宅介護支援事業所」を立ち上げ、あらゆる介護ニーズへの対応を行ってまいりました。年度前半は周りへの周知不足もあり、思うように依頼件数を伸ばすことができませんでした。年度後半には甲斐市包括との連携も強化、また、甲府市内主要病院との連携もあり 10 月以降は順調に依頼件数を伸ばすことができ現在はフル稼働となっています。自施設へは年間通してデイサービスへ 19 件、ショートステイへは 12 件の依頼となっています。

(4) しあわせホーム甲府 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

グループホームについては、目標入所者 8.3 名 稼働率 93%に対し、平均入所者数 8.7名 稼働率 97% と目標を達成することができました。

地域交流について、ボランティア、慰問など、外部の方との交流も多く取り入れ、入所者に楽しみのある環境を提供することができました。また定期的に関催している運営推進会議でも施設内の行事、活動について報告させていただいています。